

リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立洲本第三小学校【指定校】

【取組内容】 自ら問いを持ち、問題解決していく子を育てるために

児童が主体的に学ぶことができるよう、「問いづくりの視点」を掲示・配布したり、シンキングツールを活用したりすることで、児童が深い問いを作成し、解決するための手立てとした。

ポイント

1. 児童が解決したいことや読み深めたい「問い」を引き出すため、「問いづくりの視点」を教室に掲示したり、タブレット端末でデータとして配布したりした（図1）。
2. 児童は5W1Hを軸に深い問いを作成し、解決するための手立てとした（図2）。
3. 「見える・思う・引っかかる」の視点ごとに自分の考えていることをシンキングツールを活用し、可視化したり、解決したい順に順序立てていったりしたことで、主体的に学ぼうとする手立てとなった（図3・図4）。

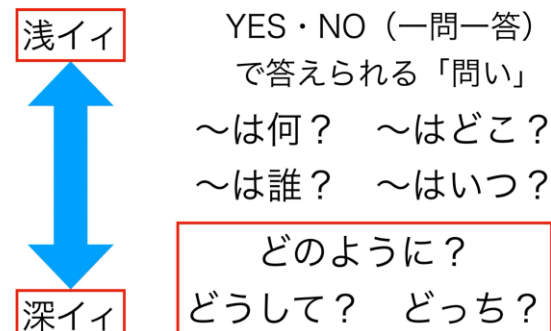


図3：見えるー思うー引っかかる
イメージマップから問いに繋がる要素の書き出し

「問い」づくりのコツ



浅イイ・深イイ「問い」づくり



単元を通して解決したい問いは、

1. ~~~。
予想：~~~だと思う。
2. ~~~。
予想：~~~だと思う。
3. ~~~。
予想：~~~だと思う。

図1：問いづくりのコツカード
学陽書房「問いから始まる授業」樋口万太郎著
より

図2：深い問いについて
学陽書房「問いから始まる授業」樋口万太郎著
より

図4：図3で書き出した要素から単元を通して追究
したい問いの順位